



- ・ 諸法規
- ・ 小学校学習指導要領
- ・ いわき市教育大綱
- ・ 学校教育ABCプラン
- ・ 学校の新しい生活様式

- 【本校の課題】
- ① 学びの基礎力
 - ② 非認知スキル
(コミュニケーション能力)
 - ③ 健康面、体力面、生活習慣

【めざす学校像】

子どもたちが、信頼できる先生方や学び合い・支え合う仲間とともに、安心してのびのびと持てる力を発揮したり、自分の可能性に挑戦したりできる学校

「学校の主体は子どもである」子どもがいて学校があり、教職員がいる。

“笑顔と納得”で登校・下校

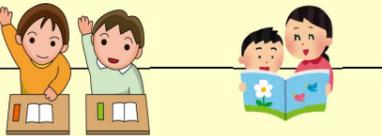
【めざす教師像】

- 使命感と情熱を持ち続け、子ども・学校・地域を愛する教師
- 教育のプロとして力量を磨き、自信を持って指導を行う教師
- 今日的な課題に柔軟に対応できる教師
- 個々の持ち味を生かし、協力してよりよい学校をつくる教師
- 広い視野に立ったものの見方・考え方と高い倫理観を持つ教師

よく考える子ども

【めざす児童像】

- ◎ 深い学びを実現する子ども
- 自ら考え、主体的に学ぶ子ども
- 人の話をよく聞き、自分の考えを持つ子ども



思いやりのある子ども

【めざす児童像】

- ◎ 生命を大切にする子ども
- 温かい心で接し、だれにでも親切にできる子ども
- きまりや約束を守り、正しい判断をする子ども
- 相手の気持ちを考えて行動する子ども

たくましい子ども

【めざす児童像】

- ◎ めあてを持って進んで運動する子ども
- ねばり強くやり遂げる子ども
- 健康や安全に気をつけて生活する子ども



1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に努めるとともに、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実を目指します。

- ・ 学ぶ楽しさや成長の実感が味わえる授業の実践（ねらいや評価規準が明確で達成のための手立てを工夫した授業、一人一人に寄り添い個々のよさや課題に応じた支援、教具やICT機器を活用した指導）。
- ・ 深め合う対話の具現と説明力の向上（協働的な学習の導入、説明活動の設定）。
- ・ 活用力の育成（既習事項の活用を意識した指導、意図的な活用場面の設定）。
- ・ 教科担任制による授業の質の向上。
- ・ 論理的思考力の育成（プログラミング教育）。

2 基礎・基本の定着を図るとともに、読解力や言語能力の育成を図ります。

- ・ 学び方とノート指導の充実。
- ・ 習熟や繰り返し練習する時間の確保。
- ・ 「うめかタイム」の効果的な活用。
- ・ 言語能力育成のための国語科授業の充実。
- ・ 「読書の時間」の充実。学校司書や図書館を活用した授業の実践。

3 教師の力量を高めます。

- ・ 共通課題の解決に向けた校内研修の充実。
- ・ 強みの発揮と弱点の補強等、互いに刺激し合う自主的授業研究の推奨。

4 地域・家庭との連携を図ります。

- ・ 地域素材、外部の教育資源の活用。
- ・ 学習習慣の確立（家庭学習の手引き）。

【評価の指標】

□学校評価のポイントをUP

- 「授業がわかりやすく楽しい」（保・児）
- 「子どもの学力を高めようとしている」（保）
- 「わからないことを教えてくれる」（児）

□国算の学期末ワークテスト学級平均85点

□アンダーアチーバーの低減

1 あいさつ力や思いやりの心を育成します。

- ・ 子ども・教師の明るいあいさつの実践。
- ・ 礼儀の定着（挨拶、返事、言葉遣い。ソーシャルスキル、コミュニケーションスキルの意図的な育成）。
- ・ 特別な支援を要する子との関わり方の重視。

2 道徳教育のさらなる充実を図ります。

- ・ 思いやりの心を基礎とした望ましい人間関係の醸成。体験を通じた、内面に根ざした道徳性の育成。
- ・ 問題解決的な学習や体験的な学習の導入により、道徳的諸価値を多面的・多角的に考えることができる授業の実践。

3 特活を重視し、自己有用感を味わわせます。

- ・ 係活動・児童会活動・学校行事等への主体的な参画。
- ・ 縦割り班活動の充実と人間関係の醸成。

4 教育活動の様々な場で主体性とチャレンジ精神を育みます。

- ・ 「自分たちの学校・学級・○○は自分たちの手で」の具現につながる「自分たちで考える、決める」生徒指導の実践。
- ・ 一人一人の活躍を引き出し、「認め、励まし、称賛する」働きかけの継続。

5 いじめを低減させます。

- ・ いじめの積極的な認知と素早い対応。
- ・ 情報モラルの育成（外部講師の活用）。

6 積極的に教育相談の機会を設けます。

- ・ 生徒指導・特別支援に関わる課題の共有と外部機関との連携。

【評価の指標】

□学校評価のポイントをUP

- 「楽しく学校生活を送っている」（保・児）
- 「あいさつや返事をしている」（保・児）
- 「思いやり、協力の心が育っている」（保・児）

□不登校・保健室登校新たな出現「0」

□いじめ認知の場合未解決「0」 重大事態「0」

1 主体的に運動する子を育成します。

- ・ 教科体育の充実とめあてを持って運動に取り組むことの日常化。
- ・ 重点を絞った運動身体プロの着実な実践。
- ・ 業間運動の実施。

2 規則正しい生活の習慣化を図ります。

- ・ 生活リズムの指導と振り返り調査の実施（検温、早寝・早起き・朝ご飯、歯磨き、入浴）
- ・ 「ノーゲーム・メディアデー」の実践。

3 食に関する指導を充実させます。

- ・ 食に対する関心・意識の高揚。
- ・ “よい朝食”の習慣化のための支援。

4 健康の保持増進を推進します。

- ・ 保健学習、保健指導の充実。
- ・ 視力維持をめざした働きかけ。
- ・ 効果的な感染症対策の継続。
- ・ 性教育の充実。
- ・ 病気やケガ予防のための指導。

5 防災・防犯意識の向上と危険予知・回避能力を育成し、事故ゼロをめざします。

- ・ 交通事故ゼロ…歩行と自転車走行の指導。
- ・ 学校事故ゼロ…学習中の安全指導の徹底、潜在危険箇所の発見と除去。
- ・ 不審者への対応…きまりの徹底と教員の対応訓練
- ・ 子どもの安全確保に向けた連携強化。
- ・ 日番による看護の徹底。

【評価の指標】

□学校評価のポイントをUP

- 「学校は子どもの体力向上や健康づくりに努力している」（保）
- 「体を鍛え、運動に取り組んでいる」（児）
- 「仕事や役割を最後まで果たしている」（児）
- 「TVやゲームの時間を決めて行う」（児）

□朝食摂取率を100%に

□体力テストの目標を達成

特別支援教育を充実させます。

- 1 支援を要する子ども一人一人のニーズに応じた指導。
- 2 積極的な交流学習による共に学ぶよさの体得。
- 3 関係機関や保護者との情報共有、積極的なケース会議の開催による課題解決。

子どもと向き合う時間の確保に努めます。

- 1 教職員多忙化解消アクションプランの実施。
- 2 統合型校務支援システムの運用。

〈主体性とチャレンジ精神を育む教育活動の推進〉

今年度

特に

- (1)「自分たちの学校・学級・○○は自分たちの手で ～想いを形に～」の具現をめざした働きかけを継続する。
- (2)非認知能力が高まる習慣づくりとして、基本原則的な考え方・行動の仕方・人との関わり方を学べるようにする。→「リーダー・イン・ミー」の教育プログラムを進め、生き方の原則に気づき、身に付け、磨き合う支援を行う。